

## 2012年度 活動報告書

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町 60 まんしょん早稲田 401

電話:03-6233-7023 FAX:03-6233-7024

### も く じ

#### 

代表あいさつ	• • • • • •	2
JaNP+の活動目的とミッション	• • • • • •	4
HIV 陽性者スピーカー派遣	• • • • • •	7
HIV 陽性者交流会	• • • • • •	11
Talking about SEX	• • • • • •	14
研修	• • • • • •	20
調査・研究	• • • • • •	27
日本エイズ学会参加支援スカラシップ	• • • • • •	32
国際ネットワーク	• • • • • •	36
メディア対応	• • • • • •	39
アドボカシー	• • • • • •	41
広報•事務局	• • • • • •	44
寄付•助成		46

# 代表あいさつ

#### 初心にもどって歩きだそう

HIV 陽性であるという事はいまの日本社会でどんな意味を持つのだろう?

「慢性疾患みたいなもの」であることが強調される。「死ななくなったのだから」「治療が出来るのだから」「福祉制度が整備されているから」もう問題ないとでも言わんばかりの主張さえ聞こえて来る。

ほんとうにそうだろうか?

病気を理由に職場を追われることがある。病気を理由に結婚を断られることがある。病気を理由に恋愛やセックスを拒否されることがある。HIV 感染を理由に診療を拒否する医療機関さえある。それが、私たちが抱えた HIV という病の現実だ。問題はこの病をあたりまえとしない偏った見方や、なんとなく嫌う社会の雰囲気だ。社会にはそんなこの病にまつわるスティグマ(汚名・差別的烙印)が根強く残っている。これが無ければ、誰もがもっと気楽に検査を受け、自分が HIV 陽性である事を隠す事も無く、通院日に偽って会社を休む必要も無くなるはずだ。

ジャンププラスの活動の使命は、私たち「HIV 陽性者が秘密をかかえることなくあたりまえに暮らすことのできる社会の実現」だ。設立時に比較するとずいぶんと状況は良くなったように見受けられる。陽性者同士が集まって活動するピアグループも全国に少しずつ増えている。陽性者であることを周囲の親しい人には伝えることが出来るようにもなってきた。しかし、職場で、コミュニティで、親戚や友人といった人間関係の中で、そして、地域の医療機関の中でさえ、自分がHIV に感染している事実を伝えることでこうむる不利益はいまだに少なくはない。そんな現実を棚に上げて「もう普通の病気だから問題ない」という論調には警戒する必要がある。

その意味において私たちの活動の道のりはまだ途中で、ゴールは遠い。しかし待っているだけでは世の中は変わらない。だからこそ私たちは自らの力で立ち、力をあわせて一緒に歩こうと思う。しかし、今はやっとそんな仲間が全国につながりはじめた段階。まだまだ最初に一歩を踏み出したところ。全国どこでも HIV 陽性であることを伝えることが何のためらいもなく出来るようになるまで、私たちの闘いは続く。自分たちの居場所を確保するだけでは不十分だ。特に社会に対する働きかけを急ぐ必要がある。

しかし、今はともに歩む仲間が増えた。その仲間たちは全国に広がった。だから、いま、気持ちを初心にもどして、次の一歩を踏み出そうと思う。HIV 陽性者に限らず、いろいろな場面で出会う、さまざまな立場の人たちの力も借りて…。そこでいま、あらためて、みなさんのご協力とご支援をおねがいします。

特定非営利活動法人日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス 代表理事 長谷川 博史

# 活動目的とミッション

HIV陽性者が秘密を抱えることもなく、社会的な不利益を受けることもなく、 HIV陽性者として、自立したあたりまえの生活ができる社会を目指します。

#### JaNP+の3つのミッション

### ネットワーク

国内外のHIV陽性者や 様々な関係者がつながり 交流と意見交換を行う

人と人のつながりを通して より多くの HIV 陽性者に 情報を届けることができます





より多くの HIV 陽性者が 連携することで より大きな声へと変わります

### 情報提供

医療・福祉・保健・政治 などの情報を H I V陽性者の視点で伝える

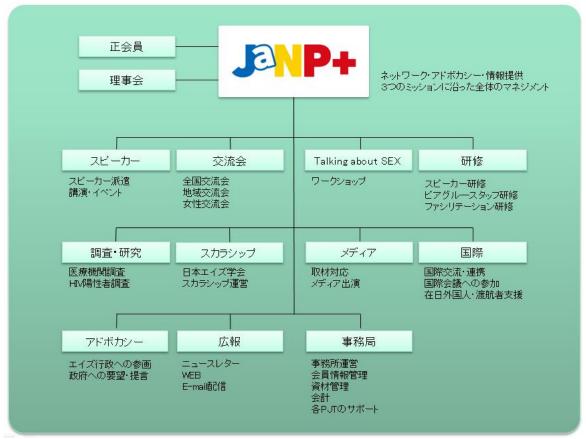


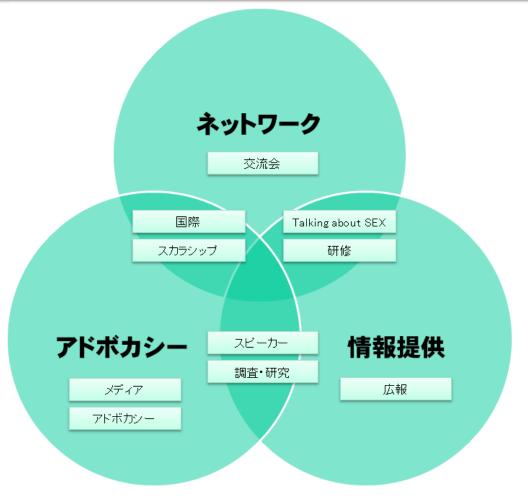
### アドボカシー

HIV陽性者の不利益や 差別や偏見をなくすよう 社会に働きかける

客観的な状況把握にもとづいて 社会への働きかけを行っています

#### 各プロジェクトとミッションの位置づけ





### HIV陽性者スピーカー派遣

HIV・エイズに対するイメージから、HIV陽性者が自分の感染の事実を周囲の人に伝えることには困難が伴います。その一方で、HIV陽性者が「顔のある一人の生活者」として認知される機会がなければ、HIVは多くの人にとって「他人事」のままであり、その結果としてイメージのギャップから生まれる差別や偏見は、いつまでも解消されない、そんな悪循環が続いてしまうでしょう。

多くのHIV陽性者が、自分のできる範囲で身近な人たちにHIV陽性であることを伝えています。それによって、伝えられた人は初めてHIVを「身近な問題」として認識しています。それと同時に、HIV陽性者がいきいきと自分らしく暮らしている姿そのものが、こうした悪循環を断ち切る1つの力にもなっているのです。

こうした小さなカミングアウトを大きくネットワークすることで、リアリティを広げていく取り組みが、HIV陽性者スピーカー派遣です。

現実には、自身がHIV陽性者であることをオープンにできる人は決して多くありませんが、JaNP+のスピーカーは、テレビや新聞などのメディアだけでなく、講演会や研修、少人数の集まりなど全国各地の様々な機会に、「等身大」の語りを提供していいます。

#### HIV陽性者スピーカー派遣活動

2012年度も、全国各地から過去最多となる41件の派遣依頼をいただきました。

#### <派遣件数>

### 41 件

#### <聴講者の述べ人数>

2,774 名 (メディアは除く)

#### <依頼主の属性> (件数)

NGO, NPO	15
医療機関	7
企業	3
教育機関	7
行政	7
メディア	2

#### <聴講者の属性> (件数/重複あり)

医療職	17
保健所職員	12
心理職	8
行政職員	10
NGO, NPO	7
学生	14
教員	7
HIV 陽性者	6
一般市民、その他	19

#### <講演目的> (件数/重複あり)

HIV/AIDS の基本的理解	11
HIV 陽性者の理解	31
HIV への差別偏見の解消	20
人権問題	8
感染予防	6
性行動	6
セクシュアリティ、ジェンダー	7
家族	6
就労	8
治療、医療	12
その他	6

#### <講演等を担当したスピーカーの人数>

8名

- ※ 本報告における数値は、依頼主よりご提出 いただいた派遣依頼書に基づいて集計した ものです。
- ※ 聴講者数については、主催からの報告また はスピーカーの目算に基づいてカウントし ています。

#### <スピーチを聴いていただいた皆様の声>



HIV についてネガティブなイメージ がある人が、いざ自分が陽性者にな

ってしまった場合、自分自身のネガティブなイメ 一ジがそのまま帰ってくるという話に、はっとした。 HIV について正しいイメージを持つことは、その まま自身を助けるということにつながるのだとい うことに気づけた。



「HIV では死ななくなったのに、自ら 社会的に自分を殺してしまう人がまだ まだいる」という言葉が印象的でした。



自分のイメージや偏見が、個人を 見ることを困難にさせてしまうというこ とが、今日の講演で良く分かりました。HIV に限 らず、他のことにも今日のお話を活かしていきた いと思います。



HIV 陽性者は普通の人である、っ て頭では理解しているけれど、実際

にスピーカーさんが来た時に「本当に普通の人」 だと感じました。これはやっぱりHIVのイメージに プラスして、今まで HIV 陽性の人と関わる機会が 少ないからだと思います。今回のような講演がど んどんいろいろな場所でやれると、もっとイメー ジが変わり、そこからどんどん理解が深まるので はないかと思います。



検査事業の中で、即日検査で陽性 になった方とお話したことがあるので

すが、その時は、おどろきや混乱、不安な思いを うかがうだけでした。生活の中でどのようなこと を考え、暮らしているかということを詳しくご本人 から聞けたことは、これまで仕事として行ってき たエイズの取り組みと、私個人とをつなぐきっか けになったと思います。



病院で実習をしていると、HIV患者 さんだけでなく、病院で診療を受け る、治療を受ける人を全て、無意識のうちに"患 者"というカテゴリーに入れてしまっていた気がし ます。患者であると同時に一人の人間として扱っ てほしいという言葉にハッとさせられました。



スピーカーさんは人前で言うには 恥ずかしいようなこともリアルに語っ てくださった。具体的にイメージしやすかった。



HIV 感染者の方が実際どんな気持 ちで生活しているのか、リアルに感じ ることができました。同性愛についても学校の授 業では教えないことなので、とても興味深く聴くこ とができました。将来自分に同性愛者の友人が できたとき、ちゃんと話を聴いて理解してあげら れるようにしたい。講演が思った以上考えさせら れた。「相手のことを思いやる」ことは個人によっ て色々な形があるけど、何より真剣に一緒に考 えられることがとても大切だと思いました。

#### 「AIDS文化フォーラムin京都」全体会

2012 年 10 月 6 日~7 日に開催された「AIDS 文化フォーラム in 京都」の全体会の企画・運営を、JaNP+が担当させていただきました。

#### <開催概要>

日時	2012年10月6日(土)13:00~14:30
場所	同志社大学 新町キャンパス 尋真館
催事名	HIV 陽性者のいま ~AIDS GOES ON~
プログラム	1. HIV 陽性者を対象としたアンケート調査から(高久陽介)
	2. HIV 陽性者によるスピーチ(HIV 陽性者スピーカー3 名)
来場者数	約 200 名

#### 今後に向けて

さらなる派遣機会の拡大のために、今後も HIV 陽性者スピーカー派遣活動に関する各方面への広報により一層努めたいと思います。2012 年度はスピーカー派遣の案内チラシや、WEB サイトにおけるスピーカー紹介、聴講者の反応の掲載などを予定していましたが、実施に至りませんでしたので、これらの取り組みに着手します。

また、2013年度はスピーカー研修「包括理解編」の開催を予定しております。

## HIV陽性者交流会

JaNP+の活動目的である「HIV陽性者があたりまえに生きることのできる社会」の実現のためには、まずHIV陽性者どうしがつながる必要があります。しかし、HIV陽性であることをオープンにしづらい日常の中では、他の陽性者と知り合うことは難しいものです。

そこでJaNP+では、HIV陽性者が交流会を継続的に開催することで、交流の場を提供しています。

#### 全国HIV陽性者交流会

「全国 HIV 陽性者交流会」は、HIV 陽性者であれば性別、セクシュアリティ、感染経路 に関わらず参加可能な交流会です。

今年度は横浜で開催された第26回日本エイズ学会にあわせて開催。全国から多くのHIV 陽性者が参加し、地域を越えたネットワークづくりの場になりました。

#### <開催概要>

日時 2012年11月23日(金・祝)16:00~18:00

場所 東京都内

会費 2,000円(料理・ドリンク代)

参加者数 25 名(スタッフ除く)

#### <参加者へのアンケートから>

あまり他の陽性者と交流する機会 がないので、こういう交流会を定期的

にやってほしいなと思いました。

色々な方々と交流ができ、とても楽 しかったです。セクシャリティは交流

に関係しないことがわかりました。ありがとうござ いました。



最近は少しずつ陽性者として動い てる人が増えて、心強く思ってます。



なかなか日常でHIVに関することを 話しづらいときがあります。しかし、こ のような交流会をしていただけることで、気持ち が軽減できるように思います。ありがとうござい



ました。

自分自身を素直に受け入れて楽し めるようになったら…。そんな世界に

なりますように。

#### JaNP+女子会

女性の HIV 陽性者限定の交流会です。ランチやお茶、お菓子を囲んで、仕事、結婚、妊 娠、出産、子育て、家族関係、ときには HIV と関係のない話も交えながら、とりとめなく おしゃべりをしています。

#### <開催概要>

日時 2012年10月20日(土) 12:00~16:00

場所 東京都内

7名 参加者数

#### HIV陽性者交流会(小グループ)

HIV 陽性者同士の交流に対するニーズは高いですが、人数の多い交流会や、ワークショップ形式が苦手な人は少なくありません。JaNP+では 2012 年度から、少ない人数であまり気を使わずに話せる場を提供するための交流会を開いています。

2012年度は東京だけでなく、他団体との共催により出張開催も実現しました。

#### <開催概要>

参加費500 円(菓子・ドリンク代)定員8 名(スタッフ除く)進行・ HIV 陽性者のスタッフ 2~3 名が参加

・ 最初にグランドルールを確認

開催日	時間	開催地	定員	申込者数	参加者数	備考
7月21日	3 時間	東京	3~8名	4	3	
10月21日	2 時間	東京	3~8名	6	2	
11月10日	2 時間	東京	3~8名	8	3	
2月24日	2 時間	福岡	3~8名	13	10	Love Act Fukuoka との共催

#### 今後に向けて

2013 年度も、対象や地域、形式などを柔軟に考えながら、また予算やスタッフの負担なども少ない方法で、こうした交流の場をできるだけ継続的に提供していきたいと考えています。

現在のところ、2013年 7月 28日に福岡で(Love Act Fukuoka 共催)、また 9月 14日には翌日に開催予定の「レインボーマーチ札幌」の開催にあわせて札幌で(NPO 法人レッドリボンさっぽろ共催)、それぞれ HIV 陽性者交流会を企画しています。

## Talking about SEX

HIVに感染しても、多くの場合は治療によって健康をコントロールし、ウイルスも抑えることができます。また、多くのHIV陽性者は、感染を予防する方法も知っています。

それでも、HIV感染という経験によって「セックスや恋愛にどう向き合っていいのかわからない…」という思いを抱いている人は、少なくありません。パートナーシップを築きたいと思える相手とめぐりあったときにも、HIVは大きなハードルになります。

本来、HIV陽性であるかどうかに関係なく、人間にとってセックスは生き方にもかかわる大切な問題です。しかし、セックスに正面から向き合って考える機会は、日常生活の中では見つけにくいもの事実です。

このためJaNP+では、HIV陽性者の立場からセックスについて考えるプログラム「Talking about SEX」を展開しています。

※ このプロジェクトはセクシュアリティが密接に関連することから、現在のところゲイ・バイセクシュアルの男性を対象に実施しています。

#### トークショー

自分の恋愛やセックスについて話すことは、多くの人にとってハードルが高いものです。そこで、「まずは話を聞くところから始めましょう」というコンセプトのもと、昨年に続きワークショップ開催とあわせたトークショーを展開しました。

昨年度は HIV 陽性者限定のイベントとして実施 していましたが、今年度はおもにゲイ・バイセク シュアルの男性を対象として開催しました。



#### <開催概要>

開催日	開催地	ゲスト	来場者数
6月3日	名古屋	中村うさぎ(作家・エッセイスト)	27
6月17日	大阪	河村昌伸(元ゲイバーマスター)	22
7月15日	東京	田亀源五郎(漫画家ゲイ・エロティック・アーティスト)	42
11月4日	東京	真崎航(ゲイポルノモデル)、エスムラルダ(ドラァグクイーン)	25
11月18日	名古屋	真崎航、サセコ(女装パフォーマー)	8
12月9日	大阪	真崎航、サセコ	50

※ 司会:長谷川博史

#### <参加者へのアンケートから>



日頃セックスについて真剣に考え る機会がないので、このようなプログ ラムでセックスや恋愛について考えたり、自分と 異なる考えを聞くことができてよかったです。



SEX や性に対する価値観などの多 様性を考えさせられました。



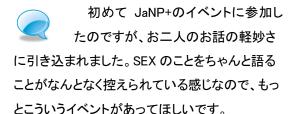
SEX の優劣という言葉にとても考え させられました。



楽しかったです。Q&A コーナーもあ ってよかったです。



時間がもう少し長く、グループディ スカッションみたいなものもできれば よかったかも。





HIV についての話ももう少しあるの かなと思ってました。



航君のようにちゃんと sex や LGBT のことを考えている方に、高校生や中 学生向けに話をしてくれたらいいと思う。



全てのトークを sex に無理に結びつ けなくても。航さんの人柄がわかって よかった。まじめでびっくり。いい人だ。



自己肯定が少しでき、気持ちが楽 になった。普段話さないことを聞くって 大切なことだなと思う。



親にカミングアウトしてないので、 サセコさんの気持ちがわかりました。 涙ながら話したと聞いた時、自分も泣きそうにな りました。



AV 男優への偏見をもっていた自分 が恥ずかしいです。



真崎さんの冷静な語り口が良かっ たです。ゲイ=テンション高めみたい な人が多い中、こういう人がもっとメディアに出て ほしいと思った。



自分の持っている固定概念とかに 気づけたし、面白かった。HIV の話は 素直に感動しました。



最後の朗読が良かったです。僕に も HIV の友達がいるので、彼のことを 思い出してしまいました。



様々なセックスについてのことを聞 いて笑ったり、興味深かったり、そし

てまた笑ったり…、本当に楽しかったです。また、 HIV 陽性であることや、またそうなる可能性が全 ての人間が持っていること、そして愛とか、セック スとか、生きることとかに HIV はただのウイルス であるだけなんだと感じられました。最後に、HIV にかかる人が少しでも減るといいですよね。



こういうイベントに初参加させてい ただきました。セックスだけではなく、

生き方についても考えさせられました。ゆっくり 自分に問いかけてみるきっかけができました。あ りがとうございました。

#### ワークショップ

改善・見直しを経た新たなプログラムでのワークショップを、東京、名古屋、大阪で計7回開催しました。HIV陽性者限定のイベントに参加した経験のない人が半数近く参加し、性感染症であるSEXについて話せる場に対するニーズを感じました。

また、これまでの参加者アンケートから「ワークが多いので、自由に話せる時間もほしい」という意見が多かったため、プログラム終了後には1時間の交流会(自由参加)を別途設けました。



#### <開催概要>

開催日	開催地	参加者数
6月2日	名古屋	8
6月16日	大阪	8
7月7日	東京	4
9月8日	東京	5
11月3日	東京	4
11月17日	名古屋	7
12月8日	大阪	6

#### プログラム

- ・ 歓迎・趣旨説明、グランドルール
- 自己紹介、アイスブレーク
- ・ 個別ワーク:セックスを振り返る
- ・ 個別ワーク:セックスの要素とリスクの認識
- ・ グループワーク: 連想ゲーム
- ・ グループワーク:セックスのメリットとデメリット
- ・ グループワーク:セックスにともなうリスクの認識
- ・振り返り、閉会、アンケート記入

#### <参加者へのアンケートから>



ファシリテーターがとてもいい雰囲 気で進めてくれて、話しやすかったで す。色々な方とセックスの話をして、人それぞれ 考え方が違うことがわかりました。



SEX に対する価値観、考え方が 様々で、楽しく会に参加できました。



他人との SEX についての価値観、 存在意義などの違いに触れられて、

今後の自分にとってプラスになりました。欲を一 個言わせてもらうなら、ポストイットを使っての進 行が少し多用しすぎかなと思いました。題材を決 めて、参加者の方々に発表(表現)する場面を作 った方が、より参加してよかったと思う気持ちが 強くなると思いました。



発覚した一年前にも参加し、その 時は SEX はもうしないと思い参加して

いた。今回二回目の参加をして、陽性者として、 ゲイとしての SEX のメリット・デメリットをみんなで 話し合ったことで、再度 SEX について考え直すき っかけにもなったと思う。感染させてしまうという 不安が一番に考えてしまうが、他の病気を自分 自身がもらわないように予防することも大切であ ると思った。また精神的な不安や思いもみんなも っていることも知った。みんな同じことを考えてい ると感じ、安心しました。



感染歴の長い先輩方の SEX 観を 知ることができて、とてもためになりま

した。



自分の友人の陽性者の人とセック スについて話をする機会は少ない。こ

のワークショップを通じて、セックスや恋愛、パー トナーシップに関する様々なことを改めて考え、 振り返ることができました。また参加したいです。 本日はお疲れ様でした。提案として、これまでの ワークシートを保管、整理できる専用クリアファイ ルのようなものがあると、過去のシートを見直す

こともできると思います。一度きりの参加ではなく、 リピート参加しやすくなるかも。



今更ながら、病気に対しての壁を 感じていて、少し苦しかったのです

が、色々な人の意見や価値観を聞いたことで、 そこまで自分の負い目を感じる必要はないなと 感じ、少し楽になりました。



普段セックスに関してディスカッショ ンすることがないので、話ができてよ

かったです。セックスのメリットを考えたりするこ とが今までなくて、少ない言葉でしか表現できな くておどろきました。もっと自分のセックスに前向 きな言葉をつけてあげたいと思います。



SEX に対する自分の考えが平面的 というか、単純だったなと思った。面 白かったです。



感染予防という頭ごなしなワークシ ョップではないので、気軽に話ができ

た。早く彼氏が欲しい!という気持ちになった。 自分の立場がどういうものかというのをわからせ ていただき、ありがとうございました。良い意味で 一人じゃないという気持ちになった。



普段、セックスについて話をするこ とはあまりなかったので新鮮でした。

ぼくはHIVになってしまいましたけど、これからの 人生もセックスするでしょうし、また他の性病にな る可能性もあるので、セーファーセックスを心が けたいと再認識しました。

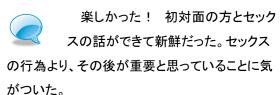


参加者のセックスについての考え が、最後にはきれいにまとまったかな というのが感想です。あと、少し本音の部分が聞 けたことはとてもよかったです。一般の啓発イベ ントだと、セーファーセックスでは〇〇です、とい う説明だけで終わってしまうので、今後もイベン トは続けていってほしいと思います。



日常生活で SEX について語る場の 多くは酒の席などで、笑い話にするこ

とはあっても、真摯に語る機会は少ないです。普 段 SEX する際も、いわゆる性教育の場で学ぶよ うなことをほとんど意識しないで SEX しています。 個別のワークとグループワーク、グループディス カッションを通じて、様々な角度から SEX につい て語り、学べる機会があって、こうして今回参加 できてよかったです。ありがとうございました。





参加型のプログラムなので、SEX だけではなく、陽性者さんのみなさん の様々な考え方とかを生で聞くことができました。 抽象的な会で、解答はないのですが、それはこ の病気特有の問題であることでもあることを理 解できました。SEX に対する恐さはぬぐえたよう な感じがします。



病気になる前となった後の話など ができたら、もっと自分を知ることが できるのでは?と思いました。



セックスという個人的事柄を「言葉」 にする作業が良かったです。大事な 作業なんだとわかっていても、自分一人ではな かなかできないことでもあるので、今日プログラ ムに参加できてよかったと思います。

#### 今後に向けて

2013年度は、このプログラムを今後も広く展開できるようにするためのマニュアルの改 訂を行います。また、ワークショップも継続的に実施していく予定です。

なお、トークショーについては Talking about SEX プロジェクトの中では実施しない予 定です。

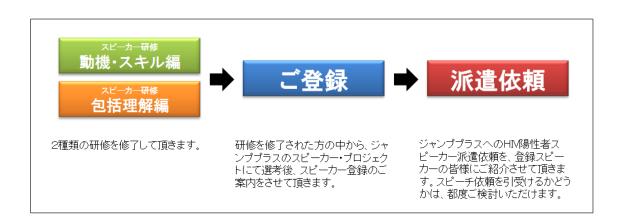
## 研修

JaNP+はその名称のとおり、地域を限定せず日本全国を対象に活動したいと考えています。しかし、日々暮らしている地域において「HIV陽性者がHIV陽性者として活動する」ということには、様々なハードルがあります。また、大都市圏以外ではセルフヘルプ活動を行うピアグループが存在せず、実際の活動を体験したり、必要な要素を学んだりする機会がないという現状があります。

このためJaNP+では、HIV陽性者によるセルフヘルプ活動のために必要なノウハウや 知識を提供するため、さまざまな研修を展開しています。

#### HIV陽性者スピーカー研修(動機・スキル編)

HIV 陽性者がスピーカーとして活動するための準備性を高めるために、JaNP+では2つの研修会を提供しています。1つは、自らの動機や姿勢を確認しつつ、伝える方法を学ぶことを目的とした「動機・スキル編」。もう一つは、様々な角度から HIV 問題を捉え直し、当事者性とともにある程度の視野の広さを獲得するための「包括理解編」です。



今年度は、これらのうち「動機・スキル編」を開催しました。

この研修プログラムは、平成17年度厚生労働省エイズ対策研究事業「HIV 感染対策の効果に関する研究」(主任研究者・池上千寿子)における「HIV 陽性者スピーカー活動を中心とした社会参加プログラムの開発と評価に関する研究」として開発されたプログラムをもとに、JaNP+が改善を重ねながら実施してきました。継続的かつ効果的にHIV 陽性者がスピーカーとして活動するために必要となる、自身のモチベーションと活動範囲(誰にどこまで話すのか等)の確認や、HIV 陽性者の中での多様性の理解、人前で話す際の心の準備や伝えるためのスキル等について、おもにワークショップを中心に行っています。

今回の研修には、全国から 10 名の HIV 陽性者が参加しました。また、今回の研修参加者から、選考を経て新たに 3 名の HIV 陽性者がスピーカーとして登録し、JaNP+の登録スピーカーは計 20 名となりました。

2013年度は、「包括理解編」の開催を予定しています。

#### <開催概要>

日時 2012年9月1日(土)~9月2日(日)

場所 東京都内

旅費助成 居住地域に応じて旅費・交通費を支給 (参加費は無料)

参加者数 10名 (スタッフ除く)

参加条件 ・ 今後、HIV 陽性者スピーカーとして活動したいという意欲がある。

(すでに活動を行っている方も参加可能)

・ HIV 陽性告知を受けてから1年以上経過している。

・ 定期的に通院しており、自分の健康状態を把握している。

・ 他の HIV 陽性者や支援団体と何らかのつながりを持っている。

・ 研修会の全日程に参加可能である。

・ 研修所定のグランドルールを遵守する。

研修修了後にレポートを提出する。

プログラム 1日目 ・ アイスブレーク

(5 時間) · 自己紹介

・ ワーク:共通点と相違点

・ ワーク:動機について考える

・ ワーク:依頼主と参加者

・ ワーク:傾聴と質疑応答

2日目・ワーク:スピーカーの要素

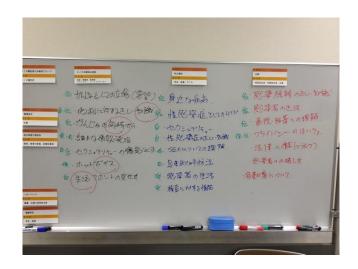
(7 時間) ・ ワーク: 自己開示

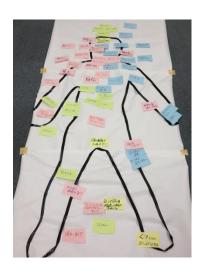
・ ワーク:話の組み立て

・ スピーカー環境をイメージする

・ 発表:ショート・スピーチ

振り返り





#### <研修参加者のアンケートから>



これまでは、自分以外の陽性 者の声を直に知る機会が、あま りなかったように思えます。手記 や、実際に個人的に会って話を

することはあっても、今回の研修のプログラムに あったような、心の深い部分にまで突っ込んだ話 というものは、お互いの遠慮などもあり、なかな か経験することができなかったように思えます。 これは、陽性者であることについて、自分とは違 う感じ方や捕らえ方をしている人がいるというこ とを、改めて確認するよい機会となりました。

スピーカーとして講演する場合、このことを常に意識することにより、聞く人に「陽性者とはこういう人だ」というような一面的な印象を与えずに、多面的な広がりを持ってもらえ、陽性者に対してある種の固定したイメージを持っている人に対し、誤解や偏見を解いていくのにとても重要なことだと思います。

また、今後の活動にあたり、まずは「陽性者=可哀想な人」というイメージを払拭できればと考えています。もちろん、日和見感染症の発症で苦しんでいる人もいますが、早期発見早期治療により発症を免れ、通常の社会生活を営めるということを伝えていきたいと思います。これは自分の例ですが、抗体検査の結果を聞きに行った際、受付の方の顔色がさっと変わったという記憶が鮮明に残っています。当時、今ほどの知識がない状態でそのような場面に接した場合、恐ろしく重大なことになってしまったんだと捕らえてしまいました。このような仕事を担当する方たちに、「早く分かって良かったね!」という気持ちになってもらえるような活動も行えたらと思います。



これまで約7年間、ほぼ流されるように当事者スピーカー活動を行って来て、動機についても自分の中で曖昧なまま、また

スキルについては我流で積み重ねて来てきたことにより年々自信が持てなくなっていました。

(中略)自分自身が発信したいことと、依頼主が求めることの折り合いをどう付けるかというのは、これまでも大きな課題だと思って来ました。 主観だけに頼らず、時には客観的な視点やデータを用いて、聴いて下さる方の心にいかに強く訴えるということを目指したいという思いがより強まったように思います。

今回の研修は、単にスピーカー活動に対することだけではなく、HIV に関連するあらゆる活動に活かされるものであるように思います。



地元でスピーカー活動をしているなかで『迷い』がありました。毎回、「はたしてこの内容でよかったのか?この語り口でよ

かったのか?かえって HIV 陽性者像を固定していないか?」と新聞取材を受けたあと、もしくは講演終了後すぐに自問自答していました。また、同じ陽性者の友人からの「なんでそんなことしてるの?意味あるの?」という疑問に「顔の見える存在でありたい」と返しつつも、すっきり答えられていない自分が居ました。

今回研修を受けて、それがパッと晴れたわけではありません。でも、こうして地元に戻ってきて研修を振り返った際に、迷いながらも続けていこうと切り替えることができました。誰かのように出来なくてもいい、話すことの先の「伝える」ことが少しでもできればと。

今後は、ひとりのHIV陽性者として等身大でありつつ、陽性者が抱える多種多様な背景を様々な角度、視点をプラスして活動をしていきたいと気持ちを新たにしています。

#### ピアグループスタッフ研修

現在、都市部を中心に HIV 陽性者によるピアサポート活動が定着しつつあります。また、 ピアグループによるミーティングやワークショップ、勉強会、飲食を伴う交流会、対象者 を限定したものなど、実施形態やニーズが多様化しています。

しかし、その経験が他の地域へ共有される機会は十分ではありません。また、新たにグループを立ち上げるには、ある程度のノウハウも必要となります。こうした背景から、JaNP+では新たにピアグループスタッフ研修のプログラムを開発し、第1回目の研修会を開催しました。

参加者からの研修プログラムに対する評価は高く、2013年度も実施を予定しています。

#### <開催概要>

日時 2013 年 3 月 2 日(土)~3 月 3 日(日) 東京都内 東京都内 19 名   参加者数 12 名   参加要件 ・ ピアグループを立ち上げたい、またはスタッフとして参加しようと思っている HIV陽性者。または、すでにスタッフとして参加しているHIV陽性者。   ・ 陽性告知から 1 年以上経過していること。   ・ 医療機関に定期的に通院していて自分の健康状態を把握していること。   ・ 他の陽性者や当事者団体・支援団体とつながりを持っていること。   ・ 可修後に所定のレポートを提出すること。   ・ この研修会のすべてのスケジュールに参加できること。   プログラム 1 日目 ・ グランドルール   ・ 自己紹介   ・ プライバシーについて   ・ いろいろな人数で話す   ・ 場所について考える   ・ 参加者の動機(ニーズ)を考える   2 日目 ・ ピアグループ活動の経験を共有する   ・ 自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する   ・ 「こんな時はどうする?」~対応例の検討~   ・ 振り返り、レポート記入					
#込者数 19名	日時	2013年3	月 2 日(土)~3 月 3 日(日)		
参加者数       12 名         参加要件       ・ ピアグループを立ち上げたい、またはスタッフとして参加しようと思っているHIV陽性者。または、すでにスタッフとして参加しているHIV陽性者。         ・ 陽性告知から1年以上経過していること。         ・ 医療機関に定期的に通院していて自分の健康状態を把握していること。         ・ 他の陽性者や当事者団体・支援団体とつながりを持っていること。         ・ 可修後に所定のレポートを提出すること。         ・ この研修会のすべてのスケジュールに参加できること。         プログラム       1日目         ・ グランドルール       自己紹介         ・ プライバシーについて       いろいろな人数で話す         ・ 場所について考える       ・参加者の動機(ニーズ)を考える         2日目       ピアグループ活動の経験を共有する         ・ 自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する       ・「こんな時はどうする?」〜対応例の検討〜	場所	東京都内	東京都内		
参加要件 ・ ピアグループを立ち上げたい、またはスタッフとして参加しようと思っている HIV陽性者。または、すでにスタッフとして参加しているHIV陽性者。 ・ 陽性告知から 1 年以上経過していること。 ・ 医療機関に定期的に通院していて自分の健康状態を把握していること。 ・ 他の陽性者や当事者団体・支援団体とつながりを持っていること。 ・ 研修後に所定のレポートを提出すること。 ・ この研修会のすべてのスケジュールに参加できること。 ・ プログラム 1 日目 ・ グランドルール ・ 自己紹介 ・ プライバシーについて ・ いろいろな人数で話す ・ 場所について考える ・ 参加者の動機(ニーズ)を考える 2 日目 ・ ピアグループ活動の経験を共有する ・ 自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する ・ 「こんな時はどうする?」~対応例の検討~	申込者数	19 名			
HIV陽性者。または、すでにスタッフとして参加しているHIV陽性者。 ・ 陽性告知から1年以上経過していること。 ・ 医療機関に定期的に通院していて自分の健康状態を把握していること。 ・ 他の陽性者や当事者団体・支援団体とつながりを持っていること。 ・ 可修後に所定のレポートを提出すること。 ・ この研修会のすべてのスケジュールに参加できること。 プログラム 1日目 ・ グランドルール ・ 自己紹介 ・ プライバシーについて ・ いろいろな人数で話す ・ 場所について考える ・ 参加者の動機(ニーズ)を考える 2日目 ・ ピアグループ活動の経験を共有する ・ 自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する ・ 「こんな時はどうする?」〜対応例の検討〜	参加者数	12名			
<ul> <li>陽性告知から1年以上経過していること。</li> <li>医療機関に定期的に通院していて自分の健康状態を把握していること。</li> <li>他の陽性者や当事者団体・支援団体とつながりを持っていること。</li> <li>研修後に所定のレポートを提出すること。</li> <li>この研修会のすべてのスケジュールに参加できること。</li> <li>プログラム</li> <li>1日目 グランドルール         <ul> <li>自己紹介</li> <li>プライバシーについて</li> <li>いろいろな人数で話す</li> <li>場所について考える</li> <li>参加者の動機(ニーズ)を考える</li> <li>自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する</li> <li>「こんな時はどうする?」~対応例の検討~</li> </ul> </li> </ul>	参加要件	・ピアク	グループを立ち上げたい、またはスタッフとして参加しようと思っている		
<ul> <li>医療機関に定期的に通院していて自分の健康状態を把握していること。</li> <li>他の陽性者や当事者団体・支援団体とつながりを持っていること。</li> <li>研修後に所定のレポートを提出すること。</li> <li>この研修会のすべてのスケジュールに参加できること。</li> <li>プログラム</li> <li>1日目 グランドルール         <ul> <li>自己紹介</li> <li>プライバシーについて</li> <li>いろいろな人数で話す</li> <li>場所について考える</li> <li>参加者の動機(ニーズ)を考える</li> </ul> </li> <li>2日目 ピアグループ活動の経験を共有する</li> <li>自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する</li> <li>「こんな時はどうする?」~対応例の検討~</li> </ul>		HIV	場性者。または、すでにスタッフとして参加しているHIV陽性者。		
・ 他の陽性者や当事者団体・支援団体とつながりを持っていること。 ・ 研修後に所定のレポートを提出すること。 ・ この研修会のすべてのスケジュールに参加できること。 プログラム 1日目 ・ グランドルール ・ 自己紹介 ・ プライバシーについて ・ いろいろな人数で話す ・ 場所について考える ・ 参加者の動機(ニーズ)を考える 2日目 ・ ピアグループ活動の経験を共有する ・ 自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する ・ 「こんな時はどうする?」〜対応例の検討〜		· 陽性·	告知から 1 年以上経過していること。		
<ul> <li>研修後に所定のレポートを提出すること。</li> <li>この研修会のすべてのスケジュールに参加できること。</li> <li>プログラム 1日目 ・ グランドルール         <ul> <li>自己紹介</li> <li>プライバシーについて</li> <li>いろいろな人数で話す</li> <li>場所について考える</li> <li>参加者の動機(ニーズ)を考える</li> </ul> </li> <li>2日目 ・ ピアグループ活動の経験を共有する         <ul> <li>自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する</li> <li>「こんな時はどうする?」~対応例の検討~</li> </ul> </li> </ul>		• 医療	機関に定期的に通院していて自分の健康状態を把握していること。		
<ul> <li>この研修会のすべてのスケジュールに参加できること。</li> <li>プログラム 1日目 ・ グランドルール ・ 自己紹介 ・ プライバシーについて ・ いろいろな人数で話す ・ 場所について考える ・ 参加者の動機(ニーズ)を考える</li> <li>2日目 ・ ピアグループ活動の経験を共有する ・ 自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する ・ 「こんな時はどうする?」~対応例の検討~</li> </ul>		・ 他の	陽性者や当事者団体・支援団体とつながりを持っていること。		
プログラム 1日目 ・ グランドルール ・ 自己紹介 ・ プライバシーについて ・ いろいろな人数で話す ・ 場所について考える ・ 参加者の動機(ニーズ)を考える 2日目 ・ ピアグループ活動の経験を共有する ・ 自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する ・ 「こんな時はどうする?」~対応例の検討~		· 研修 <sup>:</sup>	後に所定のレポートを提出すること。		
<ul> <li>自己紹介</li> <li>プライバシーについて</li> <li>いろいろな人数で話す</li> <li>場所について考える</li> <li>参加者の動機(ニーズ)を考える</li> <li>2日目</li> <li>ピアグループ活動の経験を共有する</li> <li>自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する</li> <li>「こんな時はどうする?」~対応例の検討~</li> </ul>		· この程	研修会のすべてのスケジュールに参加できること。		
<ul> <li>プライバシーについて</li> <li>いろいろな人数で話す</li> <li>場所について考える</li> <li>参加者の動機(ニーズ)を考える</li> <li>2日目</li> <li>ピアグループ活動の経験を共有する</li> <li>自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する</li> <li>「こんな時はどうする?」~対応例の検討~</li> </ul>	プログラム	1日目	・ グランドルール		
<ul> <li>いろいろな人数で話す</li> <li>場所について考える</li> <li>参加者の動機(ニーズ)を考える</li> <li>2日目 ・ ピアグループ活動の経験を共有する</li> <li>自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する</li> <li>「こんな時はどうする?」~対応例の検討~</li> </ul>			· 自己紹介		
<ul> <li>場所について考える</li> <li>参加者の動機(ニーズ)を考える</li> <li>2日目 ・ ピアグループ活動の経験を共有する</li> <li>自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する</li> <li>「こんな時はどうする?」~対応例の検討~</li> </ul>			・ プライバシーについて		
<ul> <li>・ 参加者の動機(ニーズ)を考える</li> <li>2日目 ・ ピアグループ活動の経験を共有する</li> <li>・ 自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する</li> <li>・ 「こんな時はどうする?」~対応例の検討~</li> </ul>			・いろいろな人数で話す		
2 日目 ・ ピアグループ活動の経験を共有する ・ 自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する ・ 「こんな時はどうする?」~対応例の検討~			・ 場所について考える		
・ 自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する ・ 「こんな時はどうする?」~対応例の検討~			・ 参加者の動機(ニーズ)を考える		
・「こんな時はどうする?」~対応例の検討~		2日目	・ ピアグループ活動の経験を共有する		
			・ 自分たちが持っているもの(シーズ)を整理する		
・振り返り、レポート記入			・「こんな時はどうする?」~対応例の検討~		
			・振り返り、レポート記入		

#### <参加者によるレポートから>

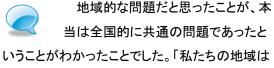


ほとんど何のスキルをもたず、現 在の地元での活動にかかわるように

なりましたが、今回この研修を通してピアグルー プ活動に必要な要素や、いままで知らなかった 参加者の二一ズを知り、今後の活動に活かせた らと思いました。



「ピアグループを立ち上げてみよ う」という雲をつかむような漠然とした 状態から、少し現実的に動いてみよう!という気 持ちに変わりました。地元に戻れば、少人数や 自分だけでくよくよ考えがちですが、今回のプロ グラムを思い出し、もっともっと頑張っているみん



ながいるんだ!と勇気づけられる気がします。

○○だから、○○できない」という事例が共通の 問題だったことで、すごく楽になると同時に、み んなに相談できるという安心感ができました。い ま、実際に活動をなさっている方々からの話を

聞けたのもすごく勉強になりました。その方々の 頑張っている姿を見ることで、自分自身の力にも なれましたし、帰ってからみんなと少しずつ、一 歩一歩進んでいきたいととても思いました。



自分の地域でこれからどのような 活動ができるのだろうかとばかり、こ

こ数年考えていましたが、ほかの地域から来ら れている人たちの話を聞いてみて、地域性の問 題もある中でどの地域でも手さぐり状態のまま 行動に移していること、完璧な正解があるわけ でもなく、不安や迷いも抱えながら活動されてい る現実(生の声)を知ることができたのは、自分 にとって大きな励みになりました。グループで共 通の話題で話を進め、共通認識を得られたこと、 その認識が北から南まで、ありとあらゆる地域 の人たちと共有できたことが、何よりも研修全体 としても大きな収穫だったように思います。



ピア・ミーティングを開くことはでき ないことではなく、できることだと確 信している。





#### Talking about SEX ファシリテーター研修

セックスという取り扱いの難しいテーマを扱うこのワークショップでは、ファシリテーションが重要な役割を果たします。そのため、今年度は Talking about SEX のためのファシリテーター育成を目的とした研修を企画、実施しました。

この研修は、昨年度に実施した計 4 回の試行プログラムにスタッフとして参加した HIV 陽性者を対象とし、2 年目となる Talking about SEX プログラムの今後についての改善・見直しもあわせて行いました。

#### <開催概要>

日時 2012年5月12日(土)~5月13日(日)

場所 静岡県内

参加者数 HIV 陽性者 10 名

プログラム 1日目 ・ グループワーク:ファシリテーションを振り返る

・ 個別ワーク:ファシリテーションの要素

・ グループワーク:ファシリテーションに伴うリスクと認識

2 日目 ・ Talking about SEX の振り返り

・ Talking about SEX の強みと弱みの分析

・ Talking about SEX のプログラム改善に関する検討

## 調査・研究

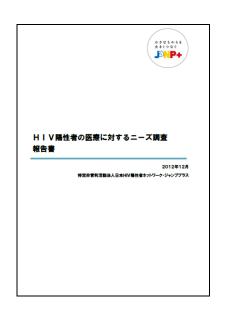
JaNP+では、当事者の声やニーズを把握するため、また情報提供やアドボカシーの活動を裏づけるものとして、独自の調査を行っています。

また、外部の研究者や企業が行う調査・研究においても、HIV陽性者の声や視点が活かされることにより、新たな知見や当事者への還元にもつながります。活動目的に沿った調査・研究については、JaNP+は積極的に参加・協力しています。

#### HIV陽性者の医療に対するニーズ調査

HIV 陽性者の医療に対するニーズについて把握することを目的とし、全国の HIV 陽性者を対象に WEB アンケートを実施しました。このアンケートでは、HIV 陽性者が感染判明後から現在までの通院や入院に関する経験、あるいは日常生活や様々な病気やケガについて日頃感じていることをお伺いしました。

この調査を通じて、日本の HIV 陽性者が医療について抱えている課題を明らかにし、あるいは整理することができました。今後、この結果をもとに当事者の声として JaNP+の活動の中で伝えていきたいと考えています。



調査報告書は WEB サイトに掲載しています。

URL : http://www.janpplus.jp/project/medical\_treatment/

## <調査概要>

調査対象	HIV 陽性者(おもに日本国内)
調査方法	WEB アンケート。携帯電話からも回答できる。紙媒体での回答は受け付け
	ていない。同じPCからは回答することができない設定を行った。
調査票の作成	調査票の検討にあたっては、2011 年に実施した全国の HIV 陽性者 12 名に
	インタビューを実施し、HIV陽性であることに伴い医療についてどのような不
	安や課題を感じているか、ヒアリングを行った。また、調査票案の検討段階
	では10名のHIV陽性者および医療者に事前にチェックしてもらい、意見を求
	めた。
広報	アンケートの広報のためフライヤーを制作し、全国のエイズ治療拠点病院
	へ郵送して設置協力を依頼した。また、全国の HIV 陽性者グループおよび
	個人へのメール配信、HIV陽性者限定の SNS への掲載等を通じて、HIV 陽
	性者に回答協力を依頼した。
回答受付期間	2012年6月1日~9月30日
回答者数	160 名(重複回答・HIV 陽性者でない人を除く)
調査報告書	・ 調査結果は報告書にまとめ、冊子として全国 380 件のエイズ治療拠点
	病院および 47 都道府県の行政、HIV/AIDS に携わる NGO や専門家、
	全国の HIV 陽性者グループに送付した。
	・ WEB サイト上にて公開し、SNS や E-mail 等による広報を行った。

#### 日本エイズ学会

第 26 回日本エイズ学会(2012 年 11 月 24 日~26 日)において、JaNP+のメンバーは以下の発表、登壇しました。また、学会場ではJaNP+のブースを出展しました。

#### <発表・登壇>

日時	11月24日15:50~17:50
分類	セミナー
演題名	エイズ新時代・若き担い手たち ~現場で日々感じていること~
発表·登壇	高久陽介
日時	11月24日18:00~20:00
分類	セミナー
演題名	第2回世界エイズデイメモリアルサービス ~生命をつなぐ~
発表·登壇	長谷川博史
日時	11月25日15:55~16:55
分類	一般演題(口演)
演題名	陽性者支援
発表·登壇	高久陽介(座長)
日時	13:15~15:15
分類	公開講座
演題名	AIDS GOES ON…続いているから続けていく
	~コミュニティ・研究者・行政、連携のこれまでとこれから~
発表·登壇	高久陽介
日時	11月24日~26日
分類	ポスター発表
演題名	HIV 陽性者の医療に対するニーズ調査
発表·登壇	高久陽介
L	

#### 研究協力

2012年度、JaNP+は以下の研究に協力しました。

- ・ 平成 24 年度厚生労働科学研究エイズ対策研究事業「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」(研究代表者:白阪琢磨)
- ・ 平成 24 年度厚生労働科学研究エイズ対策研究事業「MSM の HIV 感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」(研究代表者:市川誠一)
- ・ 平成 24 年度厚生労働科学研究エイズ対策研究事業「地域においてHIV陽性者等のメンタルへルスを支援する研究」(研究代表者: 樽井正義)
- ・ 平成 24 年度厚生労働科学研究エイズ対策研究事業「HIV 感染予防対策の個別施策層を対象にしたインターネットによるモニタリング調査・認知行動理論による予防介入と 多職種対人援助職による支援体制構築に関する研究」(研究代表者:日高康晴)

#### 調査プロジェクト「Futures Japan」への協力

JaNP+のミッションであるアドボカシー活動には、説得力のあるエビデンスが必要となります。そのため JaNP+では、2012 年度よりスタートする調査プロジェクト「HIV Futures Japan プロジェクト」に協力しています。

このプロジェクトは、HIV 陽性者の「自分らしくより健康的な生活の実現」と「暮らしやすい社会環境づくり」を目指し、放送大学の井上洋士教授を中心として、多数の HIV 陽性者が参加・協力する当事者参加型で立ち上げられました。現在は、HIV 陽性者のための総合情報ポータルサイトの制作・運営と、大規模な WEB アンケート調査の準備を行っているところです。

このプロジェクトには、HIV 陽性者の視点や意見を大きく取り入れるため、全国から 19 名の HIV 陽性者が参加しています(レファレンスグループ)。1年目となる 2012 年度は、これまでの JaNP+の活動によって培ったネットワークを活かし、このレファレンスグループの結成と運営に協力しました。

2013年に実施予定のWEBアンケート調査では、健康状態、通院、セックス、依存症、子どもを持つこと、周囲の人々や社会との関係、心の健康、健康管理、福祉や支援など多岐にわたる質問項目があります。この調査結果は、HIV 陽性者の生活や医療だけでなく、今後日本のエイズ対策に大きな影響を与えるものになることが期待されます。



HIV 陽性者のための総合情報サイト「Futures Japan」がオープンしています。

URL : http://futures-japan.jp/

※「Futures Japan」の調査サイトも間もなくオープン予定です。

### 日本エイズ学会参加支援スカラシップ

HIV医療体制は、患者も積極的に医療に参加してゆく先駆的治療の実現が求められます。これは「患者中心の医療」の実質的展開そのものです。しかし、様々な意見を出し合い討議され、新たな治療の在り方が提示される日本エイズ学会に関しては、専門家ではないHIV陽性者が触れる機会は少ないのが実情です。

そこで、全国にいるHIV陽性者が経済的、地理的または心理的に参加しにくいところを、少しでも参加しやすくするために、JaNP+では複数のHIV陽性者当事者団体および支援団体との協働により、日本エイズ学会・学術集会へのHIV陽性者の参加を促すスカラシップ(学会参加費援助)を行っております。多くの企業や団体、個人によるご支援のもと、HIV陽性者が自ら学会に参加することにより、地域を越えた様々な当事者や支援者、専門家の方々と交流し、あるいは多くの専門的な会議に参加して、HIV感染症に係わる知見をさらに深めてもらいたいと考えています。

一方、多様な専門家の学会参加者にとっても、HIV 陽性者の姿とともに、当事者の視点や発想、熱望などに触れる機会となるのではないでしょうか。

#### スカラシップ委員会への参加

2012年11月24日~26日に開催された第26回日本エイズ学会学術集会・総会に向けて、JaNP+は以下の団体とともに「HIV 陽性者参加支援スカラシップ委員会」を構成しました。

#### <構成団体>

社会福祉法人はばたき福祉事業団 URL: http://www.habatakifukushi.jp/

特定非営利活動法人ぷれいす東京 URL: <a href="http://www.ptokyo.com/">http://www.ptokyo.com/</a>

#### 「第26回日本エイズ学会 HIV陽性者参加支援スカラシップ報告書」 発行

今回も多くの企業および団体から寄付や助成をいただきまして、55名の HIV 陽性者がスカラシップを通じて学会に参加することができました。

スカラシップ委員会では、医療、行政、支援等 HIV/AIDS に関わる方々に当事者の声を届けるため、 参加者によるレポートをまとめた報告書を発行しました。

学会で発表された現在の HIV/AIDS に関する様々な 発表や取り組みについて、HIV 陽性者が感じたリアル な意見をお伝えする内容になっています。

第26回日本エイズ学会学術集会・総会 HIV陽性者参加支援スカラシップ 報告書

HIV陽性零参加支援スカラシップ委員会

#### 報告書は WEB 上でもご覧いただけます。

URL : http://www.janpplus.jp/project/scholarship/

#### <学会参加支援実績>

協賛・助成金総額 1,825,000 円 スカラシップ応募者 58 名

スカラシップ受給者 55名

#### 「HIV陽性者による第26回日本エイズ学会 参加報告会」 開催

学会に参加できなかった HIV 陽性者や、学会に参加した HIV 陽性者の声をよりリアルに 声を伝える場として、参加報告会を開催しました。

この報告会では、実際に学会に参加した陽性者 3 名が、それぞれ緊張しながらも、自身 が感じた率直な感想や意見を発表しました。日本のエイズ対策への当事者参画の意義が感 じられるイベントになりました。

#### <開催概要>

2013年2月3日(日) 14:00~16:00 開催日時

大久保地域センター会議室 (東京都新宿区) 場所

主催 HIV 陽性者参加支援スカラシップ委員会

1. HIV 陽性者のための学術集会参加支援プログラムにおける 内容 陽性者の情報源と関心のありか、支援ニーズについての考察

ぷれいす東京 大槻知子

2. 学会参加者による報告 ~陽性者の視点で見たエイズ学会~

スカラシップ受給者 3名

3. 当事者による学会への参加の意義

はばたき福祉事業団 理事長 大平勝美

参加者数 46 名 (出演者・スタッフ除く)

#### <参加者へのアンケートから>

毎回新しいスピーカーの方がお話 され、色々な方向からこの学会を見 ているのだと感じ、いつも新鮮に思います。

大都市と地方の差を感じました。時 間がかかるかもしれませんが、改善 されることを期待します。地方の参加者が増えて くれるといいと思います。

都市圏の成果が必ずしも地方では そのまま役に立つわけではなく、地域 に根差したプログラム、支援体制の在り方を真 剣に検討する時期がきたのだと強く実感した。

発表者がどうしてもゲイの方が多く なってしまう。いろんな立場からの意 見があったほうがいいのでは。



人それぞれの見方、考え方をレポ 一トを読むだけではわからない、「生 の声」を聞けたと思います。スピーカーの方々、 皆様のお話を興味深く拝聴させていただきまし た。内容の濃い報告会だったなと思います。

3 人がそれぞれ自分の言葉で話さ れていて、心に響きました。「やはり

来てよかった」の一言につきると思います。 HIV 陽性者の方は色々な形で予防

啓発を通じ、偏見・差別を少しでも取 り除こうとしていることがわかり、自分を含め周り がもつと行動すべきと改めて考えさせられました。 当事者意識を持つということは難しいようで簡単 かもしれないが、簡単なようで難しい、持ち続け る必要があると思います。

#### 2013年度 スカラシップ委員会運営

次回の第 27 回日本エイズ学会は、2013 年 11 月 20 日~11 月 22 日に熊本で開催されます。同学会でもスカラシップを実施できるよう、社会福祉法人はばたき福祉事業団および特定非営利活動法人ぷれいす東京との協働により、すでに準備を始めています。

# 国際ネットワーク活動

「HIV陽性者があたりまえに生きることのできる社会」の実現は、日本国内における活動によってのみ実現するものではありません。マラリア、結核と並んで世界三大感染症と呼ばれるHIVの問題には、グローバルな視点で取り組むことが必要不可欠です。

この観点からJaNP+では国内のみならず、国外のHIV陽性者とのネットワークを広げることが重要であると考え、HIV陽性者グループや関連団体と連携し、国際会議等への参画を積極的に行ってきました。

世界的な不況が長引く中、日本のみならず諸外国においてもエイズ対策への資金提供や予算確保は厳しい状況にあります。しかし、こうしたときこそ市民社会が国際社会のリーダーに働きかけを行い、国と言う枠組みを超えた密接な協力体制を築く必要性が高まっています。市民社会をリードすべき存在として、HIV・エイズ問題の当事者である私たちの国際分野での活動は、重要な役割を果たします。

日中市民交流対話プロジェクト

中国の第一線で活動する NGO の代表的な市民活動家らが来日し、日中関係における民間

どうしの交流と対話の重要性について語り合うイベント。2012年8月26日「中国のこと

をもっと知ろう!」では、HIV 対策や身体障害者・助成の就職差別問題などをテーマに講

演・交流会が行われ、JaNP+代表の長谷川が出演しました。

台湾のHIV陽性者支援団体を訪問

2012年10月27日、台北で活動する HIV 陽性者支援団体 Taiwan Lourdes Association

(社団法人台湾露徳協会) を事務局長の高久が訪問し、台湾の現状や活動の詳細について

話を伺いました。この訪問は特定非営利活動法人ぷれいす東京代表の生島氏のコーディネ

イトによって実現しました。

訪問レポートは JaNP+ニュースレター15 号に掲載しています。

 ${\sf URL}: \underline{\sf http://www.janpplus.jp/information/}$ 

国際会議への参加

2012 年 7 月 23 日 $\sim$ 27 日、アメリカのワシントン D.C.で開催された第 19 回国際エイズ

会議に、JaNP+メンバーから羽鳥が参加しました。

37

## 主要国におけるHIV陽性者の入国規制に関する情報提供

HIV 陽性者が抱えている不安の一つに、海外への渡航に際する入国の可否があります。 そこで、英語で提供されているウェブサイト "HIV Travel"の情報をもとに、日本と往来 の多い主要な国々について和訳し、リストとしてウェブサイトにアップしています。

残念ながら、国によっては法律上の規制と運用の実態が異なる場合もあり、このリストのみをもって入国できるかどうかを判断しにくいこともありますが、少なくとも当事者が 渡航を判断する際の参考情報として提供しています。また、HIVに対する差別や偏見の現 状を知って頂くきっかけにもなるでしょう。

事務局には、HIV 陽性者や医療機関から、こうした入国規制に関するご相談が年間数件ほど寄せられています。

#### HIV 陽性者の入国規制に関する国別リスト(2012年9月更新)

URL : http://www.janpplus.jp/project/information/

HIV Travel (海外サイト)

URL : http://www.hivtravel.org/

## 2013年度の活動予定

2013 年度は、第 5 回アフリカ開発会議(TICAD V)に際して開催される市民交流のための前夜祭イベント「ロラケさんに聞こう!エイズのこと、女性と子どもたちのこと、そして私たちになにができるか」(2013 年 5 月 31 日@横浜開港記念会館講堂)に、JaNP+代表の長谷川が出演を予定しています。また、内閣府による第 2 回野口英世アフリカ賞受賞者のアレックス・G・コウティーノ博士の来日にともない、面談を予定しています。

2013年9月には、前年に訪問した台湾のLourdesで行われるHIV陽性者集会に、高久がゲストスピーカーとして招かれ、出席を予定しています。

## メディア対応

活動の性格上、JaNP+にはテレビ、新聞、雑誌など様々なメディアからの取材依頼があります。しかし、エイズの登場以降、あらゆる形で行われた報道は、HIV・エイズおよびHIV陽性者に対する差別や偏見と密接に関わっており、それらは良くも悪くも現在の私たちに大きな影響を及ぼしてきました。

近年では、エイズ・パニックの時代と比べてHIV・エイズに関する報道自体が少なくなっています。マスメディアを通じて大げさに取り上げることが、当事者である私たちにとって必ずしも有益であるとは考えていませんが、マスメディアの影響力は、私たちの活動が届かない人々に語りかける機会として無視できないものです。また、取り組み方によっては、私たちのミッションである「HIV陽性者があたりまえに生きられる社会の実現」にも寄与できると考えています。

このため、JaNP+ではこれまでの活動を通じた経験を活かしながら、機会をとらえて 様々なメディアからの取材依頼に対応しています。

## 取材•番組出演•記事掲載

2012 年度は、以下の各メディアにおいて、HIV 陽性者の立場からの意見や JaNP+の活動について、取り上げていただきました。

#### <開催概要>

日付	媒体名	内容
2012年7月	週刊ダイヤモンド	記事掲載
2012年8月28日	記者会見	日本記者クラブ エイズ予防指針改訂 記者会見
2012年11月30日	J-WAVE	JAM THE WORLD「BREAKTHROUGH」 出演
2012年12月	愛媛新聞	HaaT えひめ主催「レッドリボンシアター」 記事掲載
2013年2月28日	NHK E テレ	「オトナのトビラ TV」 出演

## エイズ啓発ビデオへの出演

公益財団法人エイズ予防財団が制作する AIDS 啓発ビデオ「サポート編」に、HIV 陽性者の立場で出演しました。このビデオは全国の HIV 検査を行う保健所等の待合室や、エイズ啓発イベントなど広く一般での放映を予定しています。

#### <ビデオの内容>

開催日時	2013年2月3日(日) 14:00~16:00
制作•出版	公益財団法人エイズ予防財団
構成	・ 基礎知識編 / 10 分
	· 検査&治療編 / 12 分
	・ サポート編 / 10 分
内容	三名の若者が、エイズに関する専門機関や団体に足を運び、様々な専門家
	や当事者と話しながら、徐々に正しい知識と理解を深めていく。一方的に情
	報を伝えるのではなく、出演する若者たちが視聴者と同じ目線で学ぶことで、
	自然にメッセージを感じられる内容となっている。

## アドボカシー

JaNP+では、HIV陽性者の権利擁護と行政等への参加・意見反映といった観点から、HIV陽性者のエイズ対策へのより広範な関与(GIPA: Greater Involvement of PLWHA)を活動の柱としています。

広い意味では、ジャンププラスの活動全体がアドボカシーにつながるものですが、ここでは特に、政府および行政への働きかけや協働についてご報告します。

## 衆議院議員選挙に向けた公開質問

2012 年 12 月 16 日に行われた衆議院議員選挙に向けて、エイズ対策に関する基本姿勢を問う「公開質問状」を各政党に送付しました。回答結果は WEB サイトにて公開、E-mail や SNS 等で関係者に広くお伝えしました。

#### <回答結果>

民主党	回答あり
自由民主党	回答あり
公明党	回答あり
みんなの党	回答あり
社会民主党	選挙公約に記載あり
日本共産党	回答あり
日本維新の会	回答あり

国民新党	回答あり
新党改革	未回答
新党日本	未回答
新党大地の誓い	未回答
減税日本	未回答
日本未来の党	未回答

## 東京都「職場とHIV/エイズ ハンドブック」制作協力

東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課では、企業の人事・労務・障害者雇用担当の方々を対象に、HIVと陽性者の現状や職場での対応ポイント、陽性者を雇用した企業の経験談などを掲載した冊子を制作し、JaNP+は制作に全面協力させていただきました。

未だに「エイズ=死に至る病」「いっしょに働いても 感染しないのか」といった旧来のイメージに基づく根 強い誤解や偏見のため、HIV 陽性者が離職を選択せざ るを得ないケースが見られる現状ですが、「HIV 陽性者 にとって働きやすい職場は、どんな人にも働きやすい 職場」というメッセージが込められるよう取り組みま した。



「職場と HIV/エイズ ハンドブック」は、WEB サイトでも見ることができます。

URL: http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/koho/kansen.files/handbook\_web.pdf

## 世界エイズデー 国内キャンペーンテーマ

厚生労働省と公益財団法人エイズ予防財団では、毎年 12 月 1 日の世界エイズデーに向けて、国内キャンペーンのテーマを設定しています。このテーマについての意見交換を行う公開フォーラム(5 月 9 日@東京、5 月 18 日@大阪)において代表の長谷川が進行役を務め、また検討会議にも参加しました。

### NGO・行政・研究者エイズ対策懇談会(仮) 設置準備への参加

2012 年 1 月 19 日に告示された改正エイズ予防指針では、エイズ対策のあらゆる分野において NGO と行政・研究者らが連携することが必要不可欠であることを言及しています。しかし具体的な連携のあり方については言及しておらず、これからの課題となっています。こうした中、エイズに取り組む NGO と行政・研究者らが協調してエイズ対策を効率的に推進できるようにするための連携基盤(プラットホーム)作りを目指し、公益財団法人エイズ予防財団が事務局となって「行政・研究者・NGO エイズ対策懇談会」(仮称)の設置準備を進めており、代表の長谷川が設置準備会のメンバーとして参加しています。

### 提言・アドバイス

前年度に引き続き代表の長谷川が東京都エイズ専門家委員として、また事務局長の高久 陽介が東京都エイズ啓発ポスターの審査員として、東京都のエイズ対策に参画しました。

# 広報・事務局

### ニュースレターの発行

ニュースレター第13~16号を制作、発行しました。

2012 年度より紙面をリニューアルし、これまでの 4 ページから 8 ページに。また発行部数も 3000 部から 5000 部へと増やし、より多くの方に HIV 陽性者の声やエイズへの独自の取り組みを届けられるよう努めています。

ニュースレターは全国のエイズ治療拠点や NGO、各種会員等に広く送付しています。また、PDF版を WEB サイトに掲載し、どなたでもご覧いただけるようになっています。 今後も3ヶ月に1号のペースで発行する予定です。

#### ニュースレター

URL : http://www.janpplus.jp/information/

### WEBサイトの運営

おもに JaNP+の活動についてお知らせするオフィシャルサイトを適宜更新しています。 2012 年度の WEB サイトの更新回数は 41 回でした (軽微な修正等は除く)。

また、2012 年度よりイベント参加や冊子の申込、講演依頼についても外部のフォームサービスを活用し、事務局の負担軽減にもつながっています。

2013年度は、寄付や賛助会費をクレジットカードでも決済できるようになる予定です。

#### 事務局運営

事務局では、外部との窓口対応のほか、各プロジェクトにおける印刷物や資料の発送、イベントの会場手配や備品などの準備、アンケート集計、事務所の管理、会計、NPO 法人関連の事務手続き等を行いました。

アンケート集計やニュースレター発送作業(個人情報の守秘に支障なのない作業のみ) については、つねに数名のボランティアスタッフが協力してくださっています。

# 寄付・助成

## 寄付・助成について

2012 年度も多くの企業や団体、個人の皆様より寄付と助成をいただきました。おかげさまで、本書でご報告させていただきましたように様々な活動を継続、前進させることができました。

あらためまして、ご支援をいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

寄付•賛助		
MSD 株式会社		
ヴィーブヘルスケア株式会社		
中外製薬株式会社		
イプソスヘルスケアジャパンリミテッド		
日本性教育協会		

※個人の方はプライバシー保護のためお名前は控えさせていただきます。

助成事業	対象プログラム
2012 年度ファイザープログラム	HIV 陽性者の医療に対するニーズ調査
~ 心とからだのヘルスケアに関する	
市民活動・市民研究支援 ~	
アステラス製薬株式会社	HIV 陽性者スピーカー研修
スターライトパートナー(患者会支援)活動	
公益財団法人エイズ予防財団	ピアグループスタッフ研修
平成 25 年度助成事業	
ヴィーブヘルスケア株式会社	ニュースレター
ポジティブ・アクションプログラム	
M·A·C 財団	Talking about SEX

また、「HIV 陽性者があたりまえに生きられる社会」の実現を目指す活動を今後も継続していくため、2013 年度はファンドレイジングへの取り組みも強化していく予定です。

今後とも、JaNP+の活動に御理解と御支援を賜りますよう、 宜しくお願い申し上げます。